

平成 25 年 12 月 27 日

報道機関 各位

2013年度食創会安藤百福賞大賞が決定

## 「食べ物の好き嫌いの学習・記憶と 感覚認知の神経機構に関する研究」

富山大学小野武年特任教授が受賞、副賞 1,000 万円

本学の特任教授 小野武年氏が、2013年度食創会「第18回安藤百福賞」大賞を受賞しました。

公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団（理事長：安藤宏基）では、創設者 安藤百福（あんどうももふく）の「食とスポーツは健康を支える両輪である」との理念のもとに、青少年の健全育成と食文化向上のための事業を行っており、陸上競技の支援事業などのほか、「食創会」を主宰しています。食創会では新しい食品の創造開発に貢献する独創的な研究者、開発者並びにベンチャー起業家を表彰する「安藤百福賞」表彰事業（後援：文部科学省）を実施しており、今年で18回目になります。大賞が選ばれたのは3年ぶり7回目となります。

第18回安藤百福賞では、脳の中には、舌で感じた「甘い」「からい」などの味覚を伝える経路に加えて、「好きな」食べ物と「嫌いな」食べ物を区別する複雑な神経回路があります。小野武年氏は、サルなどの動物の脳の色々な部位において神経細胞の応答性を調べる独創的な実験システムを開発し、食べ物を見たり、ニオイを嗅いだり、食べている間の脳の神経細胞の応答を世界で初めて解析しました。そして、空腹や満腹を感じたり、好きな食べ物と嫌いな食べ物を見分ける神経細胞、食べ物の好き嫌いの度合を表現し、好き嫌いの情動の発現に関わる神経細胞を特定しました。食べ物を好きな物、嫌いな物、初めて見る物に分類し記憶し、あるいは食べ物だけでなく空間や場所やエピソードを認知、記憶し、それらを合わせた記憶に関与する神経細胞の存在をも明らかにしました。小野武年氏の研究成果は、「食」に関する脳の複雑な仕組みの理解を大きく進めるもので、国際的にも高く評価されています。

なお、表彰式は、2014年3月7日（金）、ホテルニューオータニ（東京都千代田区）で開催します。

については、取材・報道方よろしくお取り計らい願います。

# News Release



【発信】国立大学法人  
富山大学総務部広報グループ  
(TEL) 076-445-6028  
(FAX) 076-445-6063  
※時間外の緊急連絡先  
(TEL) 080-2952-4880

○安藤百福賞 大賞（賞金 1,000 万円） 受賞者

小野武年（富山大学 特任教授）

受賞テーマ：食べ物の好き嫌いの学習・記憶と感覚認知の神経機構に関する研究

受賞内容：受賞者は、食べ物の好き嫌いの学習・記憶に基づく食物認知と摂食行動の神経機構を明らかにするために、ヒトに近いサルを用いた新しい実験方法を確立し、食べ物を見たり、ニオイを嗅いだり、食べている間の脳の神経細胞の応答を世界で初めて解析した。視床下部における、空腹や満腹を感じたり、好きな食べ物と嫌いな食べ物を見分ける神経細胞の存在、扁桃体における食べ物の好き嫌いの度合の評価や好き嫌いの情動（喜怒哀楽）発現に関与する神経細胞の存在、また海馬体における食べ物を好きな物、嫌いな物、初めて見る物として分類することとその記憶、あるいは食べ物だけでなく空間、場所、エピソードの認知や記憶、それらを合わせた記憶に関与する神経細胞の存在、前頭前野における食べ物を期待できる環境状況の認知、好きな食べ物、嫌いな食べ物などの刺激の意味の認知やこれらの情報による摂食行動の最終意思決定に関与する神経細胞の存在などを明らかにした。さらに、摂食行動の発現・停止に重要な役割を果たしている視床下部と前頭前野および扁桃体間の機能的連関を神経生理学的に証明し、摂食行動の神経機構を総合的に解明した。このように、摂食行動の脳内メカニズムを、神経細胞と神経回路の相互作用の面から明らかにしており、脳の回路網の全容を余す所なく解明しようとするこれからの脳科学の発展に重要な基盤を提供するとともに、「食」に関する脳の複雑な仕組みの理解を大きく進めるものである。

【本件に関する問い合わせ先】  
富山大学 システム情動科学  
教授 西条寿夫  
TEL: 076-434-7215